

市長記者会見記録

日時：2015年4月7日（火）午後2時～午後2時25分

場所：本庁舎2階 講堂

議題：市政一般

（話題提供）川崎市スポーツ特別賞の贈呈について（市民・子ども局）

坂本九歌碑の寄贈について（市民・子ども局）

妊娠・出産SOS電話相談等について（子ども本部）

<内容>

（川崎市スポーツ特別賞の贈呈について）

（坂本九歌碑の寄贈について）

（妊娠・出産SOS電話相談等について）

司会： ただいまより、定例の市長記者会見を始めさせていただきます。

本日は市政一般となっております。

初めに、市長から、川崎市スポーツ特別賞の贈呈について、坂本九さんの歌碑寄贈について、妊娠・出産SOS電話相談等についての3件を話題提供させていただきます。

では、市長、よろしくお願いいたします。

市長： こんにちは。よろしくお願いいたします。

まず、新年度早々、川崎市にとって大変うれしいニュースが飛び込んでまいりました。

4月4日、先週の土曜日のことでございますけれども、女子バレーボール、NECレッドロケッツが、Vリーグファイナルステージにて見事優勝、日本一に輝かれました。レギュラーラウンド2位からの逆転優勝、その優勝を決めた最終戦も1セットとられてからの逆転優勝と、本当に粘り強い戦いで頂点に立たれました。私も優勝の瞬間に立ち会うことができたのですけれども、選手の皆さんの最後の最後まで諦めない気迫に大いに勇気づけられました。

川崎市に明るいニュースをもたらしてくれたNECレッドロケッツの皆さんの活躍をたたえ、川崎市からスポーツ特別賞を贈呈させていただきたいと思っております。

次に、坂本九歌碑寄贈についてのご説明をさせていただきます。

坂本九さんは、皆様ご存じのとおり、地元川崎小学校出身で、「上を向いて歩こう」、

「明日があるさ」などで知られる世界的歌手でございます。

このたび、ライオンズクラブ国際協会 330-B 地区の皆様が、本市の音楽のまちづくりと地域の活性化に貢献するために、J R 川崎駅東口駅前広場内に作製いたしました坂本九さんの歌碑を寄附したいとお申し入れいただいたものでございます。

つきましては、今週 11 日土曜日にライオンズクラブ主催で行われます坂本九記念歌碑除幕式の中で感謝状を贈呈することにいたしました。

歌碑は御影石製で、坂本九さんの奥様の柏木由紀子様が考えられたプロフィールと、「上を向いて歩こう」の歌詞が刻まれております。

次に、デザインですけれども、歌碑上部の両側が突き出たようになっているのは、上を向いていくことを、また、中央がくぼんでいるのは涙がこぼれないよう、涙を受けとめることをイメージしていると伺っております。

川崎が誇る世界的歌手を記念する歌碑が、土地所有者である J R 東日本様のご協力により、本市の玄関口である駅前広場に設置されましたことにも、あわせて感謝申し上げます。

市民の皆様や観光客が多く通行する場所に歌碑が設置されましたので、坂本九さんがこれまで以上に末永く親しまれ続けていくものと期待しております。

本市といたしましては、坂本九さんをはじめ、様々な音楽資源を生かしながら、ミュージア川崎シンフォニーホールを象徴に、音楽のまちづくりを引き続き推進してまいりたいと考えております。

次に、妊娠・出産 S O S 電話相談等についてご説明をいたしますので、資料の川崎市妊娠・出産包括支援事業の充実についてをご覧くださいませでしょうか。

本市では、妊娠期から出産後の切れ目のない支援の充実を図るため、平成 26 年 10 月から産後ケア事業等から成る川崎市妊娠・出産包括支援モデル事業を実施してまいりました。

平成 27 年度から本格実施するに当たり、川崎市妊娠・出産包括支援事業として、さらなる内容の充実を図ります。妊娠に係る不安な悩み等の相談を受け、早期に適切な支援を行うことを目的に、電話による専門相談窓口を 4 月 1 日から設置したところです。

実施につきましては、川崎市助産師会に委託し、現在、市のホームページに掲載し広報しておりますが、さらなる周知を図るため、名刺サイズの広報用カードを作成し、4 月下旬ごろから妊娠判定薬を販売する市内薬局、ドラッグストア等への設置を依頼し、配布してまいります。

資料にも示しましたカード見本につきましては、拡大したものがこちらとなりますので、ご覧になっていただければと思います。

思いがけない妊娠等、妊娠して戸惑っておられる方々からのSOSをしっかりと受けとめて、保健福祉センター等の関係機関で専門的な相談につなげていくなど、早期に適切な支援を行ってまいります。

次に、産後ケアについてでございます。

産後ケア事業は、出産後の母子が地域の助産所での宿泊や家庭訪問により、助産師から赤ちゃんの育て方や母乳のケア等の専門的支援を受けるものです。また、継続支援が必要な方は、関係機関と連携し、安心な子育てにつなげることを目的に、平成26年10月からモデル実施をしております。

利用者からは、助産所へ宿泊して赤ちゃんのお世話の仕方や夜泣きへの対処法をその場で教えてもらって、安心したという声もいただいていると伺っております。

平成27年度からはさらに利用を広げるため、平成26年度のモデル実施の状況を踏まえ、自己負担額を減額することといたしました。その内容は、宿泊型が自己負担1日1万円を9,000円に、訪問型が自己負担1回6,000円から5,000円に減額することとしたものです。

このような妊娠・出産SOS電話相談窓口の設置と産後ケア事業の2つの事業を連携させた取組として本格実施しているのは、本市が神奈川県では初めてとなります。

今後も妊娠初期からの切れ目のない支援の充実により、子育て家庭の安心・安全な妊娠・出産に向けた環境整備を進めてまいりたいと考えております。

話題提供は以上3件でございます。

次に、資料にはございませんが、生田緑地西口園路工事に関する設計価格の情報漏えい事件についてのご報告をいたします。

これまで、建設緑政局長を委員長とする情報管理特別対策委員会を設置して、原因の究明と情報漏えい対策について検討を行ってまいりましたが、中間報告について、本日、川崎市職員不祥事防止委員会を開催し、その内容について検討を行い、明日、中間報告の内容を発表させていただきます。発表の方法等については、後ほど事務担当からご連絡させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

私からは以上です。

司会： ありがとうございます。

それでは、質疑応答に入ります。市政一般の質疑とあわせまして、今の課題につきましても質疑をお願いしたいと思います。

それでは、幹事社さん、よろしく願いいたします。

（川崎市スポーツ特別賞の贈呈について）

幹事社： まず、明るい話題ということで、スポーツ特別賞なんですけれども、市長、これたしか東京で行われたやつですね。

市長： はい。

幹事社： 試合を見に行かれたと思うんですが、どんな印象だったでしょうか。

市長： ファンの方も東京体育館がもう満杯状態で、久光製薬とNECの青と赤に真っ二つに割れたような体育館、満員の中で、すごい熱気があって、3連覇を目指す久光製薬で強豪相手でしたから、どうなんだろうと心配していましたが、予想をはるかに超える気迫で見事優勝をつかまれた。感動的でしたね。

幹事社： これ、具体的な贈呈の日というのは、またしばらく後になるんですかね。

市長： はい、そうですね。

（坂本九歌碑寄贈について）

幹事社： それからもう一つ、歌碑のほうなんですけれども、先ほど市長のお話にもありましたように、川崎は音楽のまちということで、それを象徴する歌手でいらっしゃる坂本九さんということなんですけど、今まで不思議なぐらい、競輪のときに市長のところにも奥さんがいらっしゃっていましたが、坂本九カップであたりができましたが、川崎市として坂本九さんというのが一般の方々にはなかなか膾炙していないような感じもしたんですけれども、市長はどういうふうに考えていますかね。

市長： これまでも坂本九さんのことについては、例えばアゼリアで取り上げさせていただいたり、川崎市民の方はよく知っているんじゃないかなと、私はそういう印象を受けておりますけれども、ただ、先ほど申し上げたように、本市の玄関口である川崎駅の東口のすごくいいところに歌碑が建つというのは、改めて多くの人に、坂本九さんが川崎出身なんだということを広く伝えられるいい機会になるんじゃないかなと思っています。

（妊娠出産SOS電話相談等について）

幹事社： 妊娠・出産包括支援事業の充実についての発表について、2番の産後ケア事業についてちょっと確認をさせていただきたいんですが、先ほど市長、この事業は26年の10月から始まったというふうにおっしゃった、間違いなかったですか。

市長： はい、そうです。

幹事社： 26年10月からこの制度を利用された方というのは、何人ぐらいいらっしゃるんでしょか。

市長： 10月から今年2月までの5カ月間で、宿泊型は19名利用されて、訪問型は80の方が利用されました。区別では中原区が利用者が特に多くて、年代は30代が多いということでございます。

幹事社： これを今回、新年度から新たにそれぞれ1,000円ずつ自己負担額を減らすという方針は、どういう過程があつてこういう結果になつたんでしょか。

市長： 利用者の皆さんにアンケートをさせていただいて、利用のところで、やはり値段が少し高いというふうなお話が多かつたと聞いています。ですから、1,000円ではありますけれども、それぞれ減額させていただいて、より多くの方に利用していただきたいという趣旨であります。

幹事社： すいません。ここからは確認なんですけれども、先ほど市長がおっしゃつた神奈川県下では初めてだというのは、こういった形の自己負担額の軽減、減額をやっているということが川崎……。

市長： いえ、このSOSの電話相談と産後ケア事業を両方、2つ行っているところが川崎市だけということでもあります。

幹事社： この2つ、1番と2番を2つやっているのが県下では川崎市だけだということなんですか。

市長： はい、そういうことです。

幹事社： わかりました。ありがとうございます。

幹事社： 各社さん。

(坂本九歌碑寄贈について)

記者： 歌碑なんですけれども、ライオンズクラブに聞くべきなんでしょうけれども、何か仕掛けはないんですか。例えば近づくと「上を向いて歩こう」が流れるとか、単なる歌碑ですか。

市長： ええ、立派な歌碑です。

記者： いや、要するに、さっきの話じゃないけれども、あの名曲を知らない若い世代も増えているんで、ああいうメロディーは是非ね、と思いましたがけれども。

市長： 形とかは、先ほど説明させていただいたように……。

記者： 説明受けないとわからないですよ。

市長： 知ってもらいたいですよね。

記者： はい。

幹事社： JRとか京急も最近、湘南地域ではサザンの曲を使ったりしていますけれども、そういうので……。あれ、京急って何かしていますよね。

市長： ええ、京急では港町駅、あと、どこかありましたでしょうかね。幾つかあったと思います。

（統一地方選挙について）

記者： 県知事選なんですけれども、今度の週末で投開票ですが、候補者が2人しかないという点もあると思うんですが、なかなか盛り上がりには欠けているんですが、市長としては、この知事選、何が争点になっているのか、あるいは市長としては、今後知事になられる方にどんな期待、希望というか、取り組んでもらいたいことというのは、川崎市の立場でありますか。

市長： 候補者が少ないということもあるので、明確な争点設定というのが非常にしづらいことから、非常に低投票率にならないかということのをものすごく心配しております。ただ、大変重要な4年に一度の選択でありますから、決して棄権なさないようにということ強く皆さんにお願いしたいなと思っております。

記者： その中で、県議選のほうが県下でも10選挙区以上無投票になるということで、それも低投票率に圧力をかけると思うんですが、川崎市内でも2選挙区が無投票で決まってしまうんですが、この無投票になってしまうということに関して何が原因だとか、県議選のあり方について、元県議としても何かご所感がありますか。

市長： 本当に無投票というのはあってはいけないというか、こういうのが全国的に増えているという報道がされていますけれども、有権者がそもそも選択できない、選択肢がないというのは、民主主義にとってもものすごく危機だと思っておりますので、そういう意味では、思いがある人はどんどん手を挙げていただきたいと個人的には思っていますが、県議選になりますと、定数2とかということになりますと、大きな政党のところが分けるという形になってしまいがちなので、そういった意味では、出てこないというのは本当に残念ですね。

記者： 特に川崎や横浜とか、相模原も含めてですけれども、政令市の県議選というのは、言い方は悪いですが、中二階だとか言われて、存在意義があるのかというような批判があるんですけれども、政令市の県議というのは必要あるのかないのか、はっきりは言えないと思うんですが、どのようなあり方、感じていますか。

市長： これはもう間違いなく必要であると思います。要するに、応分の県税を皆さん支払っていただいているわけで、その分の主張というのはしっかり議員さんにやっていただかなくちゃいけないと思うんですが、選挙公報なんかを見させていただいても、これ市政の話じゃないのというような公約が並んでいたり、ちょっとこれは有権者をばかにしているんじゃないかというのも散見されたりして、いかがなものかなというのはいは県議選について私は思いますね。

記者： そういう意味で、候補者が出ないというのは、制度的な定数が少ないのもあると思うんですけれども、いわゆる魅力がないとか、市議選はそういう意味では今回も多く出ているのを比べると、県議の仕事に魅力がないんじゃないかというような指摘もあるんですが。

市長： どうなんですかね。決して私はそうは思わないですけれども、確かに政令指定都市だと、争点設定というか、市民にどう訴えるのかというのが非常に難しいということだと思いますね。

記者： 一方、市議選については、市長が告示日には市議選の候補の街頭応援演説にも行かれたようなんですけれども、選挙期間中、何回か行かれる予定はあるんですか。初日だけなんですか。

市長： 今のところは、今日時点では特に予定しておりませんが。

記者： それはやはり要請があってという形なんですか。

市長： そうですね。

記者： 市長は与党、野党というのはないという主張は今までも言っていらっしゃいますけれども、市長が応援に行く候補と行かない候補というのはどういった差異があるというか、ほかの候補でも来てほしいという人が多分いるとは思いますが。

市長： これまでのかわり方という意味での判断ですね。

（待機児童について）

幹事社： すいません。話、全然別なんですけれども、4月になって、市長が公約された待機児童ゼロが4月1日の予定になっています。先だって、横浜市長は会見で非常に厳しいというお見通しを述べられました。川崎市もまだ数字を精査されている最中だと思うんですけれども、現段階で川崎市の待機児童、どのような状況になっているのか、ゼロを達成できるのか、今のところの見通しを聞かせてください。

市長： まさに今、数値を精査中でありますので、準備が整い次第、改めてご報告をさせていただきたいと思っています。

幹事社： もちろんそのとおりだと思うんですけども、今のところ、ゼロにすることが実現できそうかどうかというところなんです。

市長： 何かフライング的な発言になりそうなので、本当にしっかりと精査した上で発表したいと思っています。

幹事社： 一応62人まで昨年4月に減って、その後、毎年のことですけれども、10月にちょっと増えてしまっていて、ただ、今年度の予算もそうですけれども、待機児童対策に市政としてはすごく力を入れていらっしゃる。福田市長らしいなという感じがするんですけども、正確な数までというのはともかくとして、今のところの見通しというか、状況の……。

市長： 見通しはいい方向に来ているんじゃないかとは思いますが、何とも今のところは。

幹事社： そうですか。

市長： はい。

(市職員の不祥事について)

幹事社： それから、明日、談合の会見があるということなんです、建設緑政局からの報告と、あと、今日の不祥事防止委員会からの報告を受けていらっしゃると思うんですけども。

市長： いや、委員会はその後あるものですから。

幹事社： あ、この後。建設緑政局からの報告はたしか昨日を受けていらっしゃいますよね。

市長： はい。受けています。

幹事社： 明日の中間報告で詳しくはお伺いしようと思うんですけども、おっしゃれる範囲で結構なんです、今回、何が問題で、どういう具合にしていけば改善でき得るかということについて、どういう具合にお考えになられていますか。

市長： 明日ですけれども、アンケートなんかをやっていて、当たり前にはやっていなければならないようなことがしっかりとできていないとか、基本的なところに危機意識が薄い部分があるんじゃないかという思いもしておりますので、改めて明日、発表させていただきますけれども。

幹事社： 昨年度末にかけて、川崎市は、殺害事件はともかくとして、職員が相次いで逮捕されるだとか、大変よからぬ状態で、市長もその依命通達などで再三、不祥事を起こさないようにというふうなお話をされていたんですが、新年度になって、どう

いう具合に改めて不祥事を起こさない体質をつくっていかれるのか、この間、新しく入ってこられる職員さんたちの辞令交付式を見させていただいて、そうか、皆さん、こういう具合に宣誓して入っていらっしやったのにと感じていたんですけれども、もし川崎市役所に何かよからぬ体質があるとすれば、それは何で、新年度以降、これをこういう具合に変えていかなければならないということを改めて聞かせてください。

市長： これも私、繰り返し申し立てていると思いますが、場面場面で定例局長会議も含めてですけれども、とにかくそういった不祥事を生まない土壌をつくるためには、徹底したコミュニケーションだということを再三にわたって言っております。ですから、1回何かをやれば不祥事がなくなるという特効薬は存在しないと僕は思いますので、その土壌をしっかりとつくっていくということに、今年度、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。

幹事社： そうすると、裏を返せば、残念ながら、一部に関して言うと、コミュニケーションが十分にとれていないところがあるということですかね。

市長： いや、そういう部分も否定できないと思います。ですから、ある意味、コンプライアンスの意識を常日ごろからお互い確認し合うというコミュニケーションも日常の中で必要なことでもありますから、そういったものをつくっていかなくちゃいけないと思っています。

幹事社： わかりました。

各社さん、ほかに何かありますか。

司会： よろしいですか。

それでは、以上をもちまして市長会見を終了させていただきます。ありがとうございました。

(以上)

この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務局秘書部報道担当

電話番号：044(200)2355